

テモテニ 1 章 1-12 節 福音に形作られたリーダーシップ

数年前、私は使徒パウロが指導していた若い牧師を紹介するテモテへの手紙一から説教をしました。テモテへの手紙一は、パウロが 3 回目か 4 回目の宣教旅行で彼がまだ自由であった時期に書かれています。しかし、第二テモテは違います。パウロはこの地上での旅の終わりを迎えていました。彼はローマで投獄され、おそらく牢獄の地下牢の穴の中にいて、友人たちが食事を運んでくれたり、身の回りの世話をしてくれたりするのに頼らなければなりません。彼は死期が近いことを知っており、この手紙にはそのような雰囲気が漂っています。

しかし、それは永遠への希望をもたらすものであり、それはこの書簡にもはっきりと見えます。この手紙はエペソ教会の長老であるテモテに宛てたものですが、教会全体が読むことを意図しているので、現代の私たちも読んで適用するのが適切です。今日は、第二テモテ 1 章 1-12 節を見ます。ここで死に直面しているパウロはテモテに、福音的な指導力を持つように勧めています。この福音的リーダーシップの呼びかけは、私たち教会のすべての人に適用します。私たちの説教の目標は、本文の主要な考えを指し示すことですが、本書全体でなくとも、この箇所ほとんどすべての節に、私たちがそこから学ぶことができる詳細が詰まっています。

しかし、それぞれの節に多くの真理があることを考えると、私はまず、福音が形作るリーダーシップの最初の真理である、教会指導職は神の御心によって召されるという最初の節だけを見ていきたいと思います。1 節にはこうあります。

1 神のみこころにより、またキリスト・イエスにあるいのちの約束にしたがって、キリスト・イエスの使徒となったパウロから、

私たちは、パウロがこの手紙の著者であることを知っています。それを否定する人はほとんどいません。パウロは使徒の中の使徒です。使徒としての彼の役割は、イエス様から直接召され、イエス様を代表して世に出ることを意味します。使徒という肩書きと役職を持つ本来の使徒たちは、イエス様が地上におられた間、個人的にイエス様と共に歩まなければなりません。パウロはそうではなく、クリスチャンを憎み、迫害しました。しかしその後、イエス様御自身がダマスコへの道でパウロに出会い、パウロはクリスチャンを迫害する罪人から、イエス様に従う個人的に使徒と呼ばれる者に変えられ、異邦人世界への最重要な宣教師となりました。聖書に登場する使徒は、イエスに直接会わなければ使徒職を得られなかったという事実は、今日、使徒職を持つ使徒は存在しないということを意味します。使徒を任命する教会や使徒を受け入れる教会は聖書的ではなく、避けるべきです。

ここでのポイントは、教会の指導者としてのパウロは、自分の計画によってではなく、神の御心によって召されたということです。そして、教会指導職に対する神の召命は、キリストにある私たちの人生と結びついています。私たちは教会リーダーシップに対する神の召命について語りますが、聖書が召命について語る第一の方法は、リーダーシップやミニストリーに対する特別な召命ではなく、救いとキリストとともにある人生に対する召命です。聖書によれば、ミニストリーやリーダーシップは、与えられる賜物に関わるものであり、主観的な召命に関わるものではありません。しかし、優れた教会指導者は神の御心によってのみ存在するという事実に見られる召命の感覚は確かにあります。この箇所はパウロに関するこの事実から始まりますが、この真理が見られるのはこの箇所だけではありません。これから読んでいきますが、6 節でテモテは**神の賜物**を持っていると描写され、11 節でパウロは再び、彼は神によって**任命されました**と述べています。

今日、書かれた神の御言葉を離れて、神から直接語りかけられた召命を受ける者はいないでしょう。しかし、勘違いしないでください。神は語られます。神は御言葉を通して語られ、誰が教会を導くべきかという御心を確認されるために教会、神の民を通して語られます。もしあなたが何らかの主観的な召命を感じているにもかかわらず、教会がその主からの召命を確信しないなら、神はあなたをまだ召されていないのでしょうか。しかし、私が強調したいのは、**またキリスト・イエスにあるいのちの約束にしたがって**という節の後半部分です。イエス・キリストを知る私たちは皆、キリストにある命の約束を経験しています。

つまり、神が何らかの形で私たち一人一人をキリストに召され、何らかのミニストリーの召命に召されたということです。私たちは皆、何らかの形でリーダーであり、それがどのような形であれ、神の御心と御計画によるものだということを実感します。考えてみてください。最初の人であるアダムにおいて、すべての人間はこの世を支配する権威を与えられました。創世記 1 章 28 節の後半で、神はアダムとイブに言われます。

創世記 1 章 28 節 海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を

支配せよ。

そして、たとえ子供であっても、自分の部屋や本棚やランドセルには、ある一定の任された領域があり、子供から大人に至るまで、その責任は神から与えられており、私たちはそのように捉えることを求められています。

もちろん、私たちは生まれながらにしてリーダーになる術を知っているわけではありません。神は私たち一人ひとりに家庭、教会、社会における権威の領域を与えてくださいますが、そのリーダーシップと権威の地位は神から与えられたものである以上、私たちがその地位を全うできるようにするのは神の責任でもあります。そして、このテモテへの手紙が進むにつれて、パウロがテモテのために、福音に形作られた真理である、彼が神の恵みによってどのように形づくられてきたか、そしてこれからも形づくられていくかを語っているのがわかります。2-3 節にはこうあります。

2 愛する子テモテへ。父なる神と、私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますように。3 私は夜昼、祈りの中であなたのことを絶えず思い起こし、先祖がしてきたように、私もきよい良心をもって仕えている神に感謝しています。

いったんここで立ち止まりましょう。**先祖がしてきたように**という言葉に注目してください。この箇所の主要なポイントではありませんが、キリスト教は旧約聖書とは異なる宗教ではないことをここで理解すべきです。イエス・キリストを通して今日私たちが神を礼拝することと、アダムとイブ、アブラハム、モーセ、ダビデ、パウロ、そして今日の私たちの礼拝には連続性があります。旧約聖書では、彼らは来るべきキリストを信じる信仰によって神を礼拝し、今日、私たちは十字架につけられ復活したキリストを信じる信仰によって神を礼拝します。旧約聖書と新約聖書の結びつきを解くと言ったある破廉恥な牧師が言ったように、私たちは旧約聖書と新約聖書の結びつきを解くことはありません。

4-7 節を続けましょう。**4 私はあなたの涙を覚えているので、あなたに会って喜びに満たされたいと切望しています。5 私はあなたのうちにある、偽りのない信仰を思い起こしています。その信仰は、最初あなたの祖母ロイスと母ユニケのうちに宿ったもので、それがあなたのうちにも宿していると私は確信しています。6 そういうわけで、私はあなたに思い起こしてほしいのです。私の按手によってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。7 神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えてくださいました。**

テモテへの挨拶でパウロが最初に使った言葉、**恵み**に注目してください。恵みとは、神が私たちにふさわしくないものを与えてくださることです。私たちはこの言葉を次の**あわれみ**という言葉と区別します。私たちはこの両方を切実に必要としています。聖書は、私たちは皆罪人だと言っています。**ローマ人への手紙 3 章 23 節 すべて的人是は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**つまり、私たちが値するのは、不義とも呼ばれる私たちの罪に対する神の怒りなのです。ローマ人への手紙 1 章 18 節は言います。**18 というのは、不義によって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬虔と不義に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。**

つまり、私たちは神の怒りの裁きを受けるに値しますが、神が私たちに怒りを注がないことによって、私たちは憐れみを与えられ、神が裁きを差し控えるだけでなく、私たちの罪に対する赦しを与えてくださることによって、私たちは恵みを与えられるのです。エペソ 2 章 8-9 節には、わたしたちのためにこのことが書かれています。**エペソ人への手紙 2 章 8-9 節 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。**

ですから、神は恵みのうちに私たちを再生させ、キリストを信じ、キリストの義を受け、罪を赦されるように信仰の賜物を与えてくださるのです。神の恵みと憐れみは、私たちに平和と、罪のゆえに離れてしまった神との回復をもたらします。

ローマ人への手紙 5 章 1 節 こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

今日、もしあなたが罪から救われたなら、あなたは**父なる神と私たちの主キリスト・イエスからの恵みと憐れみと平和を**。与えられたのです。

もしあなたが自分の罪を悔い改めず、イエス・キリストを主であり救い主として受け入れていないのなら、是非今日こそ神からこれらのことをご自分で体験する日になしてください。イエス・キリストに立ち返ることで、あなたは今日、神の怒りの下ではなく、神の憐れみと恵みの下にここを去ることが

できます。しかし、私たちが神の恵みを必要としているのは、救いで終わりではありません。神が私たちに召してくださることは何でも、私たちが成し遂げるためには神の恵みが必要なのです。

ですから、パウロはテモテに、**祈りの中であなたのことを絶えず思い起こし**、ていると言っているのです。パウロは、長老になることはテモテ一人でできることではないことを知っているのです。テモテが教会を牧会する困難に直面するとき、パウロが個人的にテモテと共に歩むことができることを何よりも望んでいることは明らかです。別れたテモテの涙の痛みを覚えているのでしょう。テモテと再会する喜びを味わいたいのに、獄中ではそれができず、彼にできるすべてはテモテのために祈る事でした。しかし、それこそがテモテのためにできる最善のことなのです。

そして、テモテのために何を祈っているのでしょうか。その祈りの少なくとも一部は、家族から受けたテモテの信仰を覚えているという言葉に見ることができます。彼の祈りは、その信仰が成長し続け、指導者としての賜物を通して他の人々に受け継がれていくことでしょう。神の恵みは、神を知り、イエスに従う家族の中で育てられたテモテに示されました。クリスチャンである親の皆さん、あなたたちは、神があなたたちに託し、あなたたちが子どもたちに受け継ぐことを期待されている信仰について、神に申し開きをすることになります。子供たちがイエス・キリストを知り、イエスに従うように躰けること以上に重要なスポーツや学業、あなたの時間を必要とする仕事はありません。教会やキリストのからだを、あなたやあなたの子供たちの優先事項としていないときに、それを行うことは困難です。ここにいる子供たちやティーンエイジャーにとって、クリスチャンの母親か父親、あるいはその両者は、幼い頃からイエスについて知ることができるように、神の恵みによってあなたたちに与えられた贈り物なのです。親御さんの皆さん、ぜひ子供たちがあなたたちの内にイエス様を見ることができますように。そして子どもたちは、両親のキリストへの信仰を、あなた自身のキリストへの信仰にしてください。クリスチャンの親がいるからクリスチャンなのではなく、あなた自身が罪を悔い改め、イエスに従うからクリスチャンなのです。

すでに見てきたように、テモテが教会でリーダーシップを発揮するようになったのは、テモテがしたことでもパウロがしたことでもなく、パウロがテモテの人生に神の賜物を認め、その賜物を認めて手を置いたからです。6節にそのことが書かれています。**6 そういうわけで、私はあなたに思い起こしてほしいのです。私の按手によってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。**

その賜物はパウロからではなく、神から与えられたものでしたが、おそらくエペソの教会でテモテを長老として任命した時にパウロはその賜物を公に認めたのです。今日、私たちは、教会がその賜物を認め、長老や執事として選んだ人々に対して、正式な任命や按手を行い、彼らのために祈ります。私たちは彼らに指導者としての賜物を与えるのではなく、神の恵みによって与えられた賜物を認めるのです。言い換えれば、それは人間や人格を認めるのではなく、彼らに賜物を与えた神を認めることを示しているのです。そして、教会の指導者たちは、自分自身の中からではなく、神から与えられた賜物としてその賜物を行います。それで、パウロは7節で言います。**7 神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えてくださいました。**

教会における奉仕やリーダーシップは、臆病であってはならないし、怒りや利己的なものであってはなりません。神の恵みに頼るというこの姿勢は、私たちが高慢に陥ったり、肩書きや責任、あるいは私たちはそれを自分の能力だと誤解してしまいがちな神から与えられた賜物を、私たちが本当に行っている働き、そしてその働きと恵みを可能にしてくださる方の代わりにさせていただいていることをわすれないようにします。

ハートクライ・ミッション・ソサエティ会長のポール・ウォッシャーは、神の偉大な人はいない。偉大で憐れみ深い神に仕えるのは、弱く、小さな者だけである。私たちは、神の恵みによって絶えず生き、形作られなければならない。と正しく述べています。

最初の2つの真理を理解することが非常に重要である理由は、福音が形作るリーダーシップの第3の真理にあります。なぜなら、私たちはリーダーとして、神の栄誉のために生きなければならないからです。8-12節を見てください。

8 ですからあなたは、私たちの主を証しすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをともしてください。9 神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自分の計画と恵みによるものでした。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられ、10 今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされました。キ

リストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不滅を明らかに示されたのです。 11 この福音のために、私は宣教者、使徒、また教師として任命されました。 12 そのために、私はこのような苦しみにあっています。しかし、それを恥とは思っていません。なぜなら、私は自分が信じてきた方をよく知っており、また、その方は私がお任せしたものを、かの日まで守ることがおできになると確信しているからです。当時のローマであれ、今日の日本政府であれ、法制度において投獄され有罪とされることは、人間のあらゆる理解において恥すべきことです。しかし、パウロにとっては、投獄されることも、死ぬことさえも恥ではありません。なぜなら、彼は人の栄誉のためではなく、神の栄誉のために生きているからです。

ここで彼がテモテの召命と彼の召命について述べているのは、牧師だけでなく、すべてのクリスチャンの召命に当てはまる言い方であることに注目してください。私たちは皆、イエス・キリストを知るなら、神の恵みを受けているので、**神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自分の計画と恵みによるものでした。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられ、**ました。

神は、時代が始まる前から、時間そのものが始まる前に、あなたの救いを定められました。ですから、この世でどんな恥を経験しようとも、福音のためにどんな苦しみがあろうとも、私たちが自分自身ではなく神に栄誉をお返しするために生きるとき、恥すべきことはありません。

もし私たちが神の恵みによって形づくられた人生を生きているなら、神の御心によって召されているのですから、私たちは自分のためではなく、神の栄誉、神の栄光のために生きることになります。パウロが神の召命の中心に福音を置いていることを考えると、福音は奉仕のためではなく、救いのための召命であることから、その福音はパウロが自分に託されていると言っていることの少なくとも一部であるように思われます。

コリント人への手紙 第一 13 章 12 節 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。

私たちの信仰は、この生涯において神の栄光をぼんやりとしか見ることができませんが、救い主の御顔を見れば、私たちの信仰は完結します。救いの祝福は、それが完全に神によるものであるということだけではありません。なぜなら、私たちは自分を救うために何もすることができないし、神を敬うことを選ぶこともできないからです。しかし、救いは神の御業であるため、神に選ばれた者は皆、イエスと対面する日まで救いを守り抜くことが保証されているのです。神は私たちに応答させた福音の働きを忠実に守ってくださるので、救いを失うことを心配する必要はない。

そして、神が私たちのうちに行なっておられる恵みの業によって神に栄誉を帰す生活こそが、讃美歌の言葉 **心やすし**と表現されるその日まで、私たちに救いの確信を与えてくれるのです。

静けき河の岸辺を おおぞらは巻き去られて
地はくずるとき つみの子らはさわぐとも
神による御民は こころ安し 神によりて安し
主よ、その日を早めてください。

信仰がついに見えるものとなり、 天の雲は巻物のように開かれ、
ラッパの響きが鳴り渡り、主は栄光のうちに降りて来られます。

それでもなお、わが魂は主にあって平安です。

聖書は、私たち全員が神からの賜物を持っており、私たち一人ひとりが神の恵みによって形づくられ、神と顔とを合わせるその日まで、神をたたえ、神の御名に栄光をお返しする人生を送ることが期待されている、と明言しています。祈りましょう。

2Timothy 1:1-12 Gospel shaped leadership

A few years ago, I preached through the book of 1 Timothy, which introduced us to a young pastor the apostle Paul was mentoring. 1 Timothy was written during a time when Paul was free and traveling on his 3rd or possibly a 4th missionary journey. But 2 Timothy is different... Paul has reached the end of his journey here on earth. He is imprisoned in Rome, and is likely in a dungeon hole in the prison, and having to rely on friends to bring him food and take care of him. He knows that death is near, and there is a sense of that in this letter. But that brings with it a hope for eternity that is evident in this book as well. This letter is to Timothy an Elder at the church in Ephesus, but it is intended to be read by the entire church, so it is proper that we read it and apply it to all of us today as well. Today, we will look at 2 Timothy 1:1-12. Here Paul, facing death, writes Timothy to encourage him to have gospel shaped leadership, and this call to Gospel shaped leadership applies to everyone of us in the church. Nearly every verse in this passage if not this whole book is packed with details that we can learn from although our goal in each sermon is to point to the main idea in the text. But given the many truths found in each verse, I want to start by just looking at the first verse where we see the **first truth of Gospel shaped leadership – that leadership is called by God's will**. Verse 1 says, **1 Paul, an apostle of Christ Jesus by the will of God according to the promise of the life that is in Christ Jesus**, We know that Paul is the author of this letter. Almost no one denies that. Paul is an apostle's apostle. His role as an apostle meant that he was called by Jesus directly to represent him to the world. The original apostles with the title and office of apostle had to personally walk with Jesus during his time on earth. Paul did not, and he hated Christians and persecuted them. But then Jesus himself met him on the road to Damascus where Paul was converted from a sinner who persecuted Christians to a personally called Apostle who followed Jesus, and became the primary missionary to the Gentile world. The fact that Biblical apostles that held the office of apostle had to personally see Jesus means there are no Apostles holding office today. Those churches who appoint them and the ones who accept them are not Biblical, and should be avoided.

The point here is that Paul as a leader in the church was called not because of his plan, but by God's will. And that call of God to leadership is tied to the life that we have in Christ. We talk about a call of God to leadership, but the primary way the Bible talks about a call is not some special call to leadership or ministry but to salvation and a life with Christ. Ministry and leadership is more about gifting according to the Bible, and less about a subjective "call." But there is a sense of call that is seen in the fact that good church leaders are only there by God's will. This passage starts with this fact about Paul, but it's not the only place we see this truth in the passage. We will read this fully in a minute, but in verse 6 where Timothy is described as having a **gift of God**, and then in verse 11, Paul again says that he was "**appointed**" by God. No one today will receive a direct spoken call from God apart from the written Word of God, but make no mistake, God does speak. He speaks through his word, and through the church, the people of God in order to confirm his will for who should lead in the church. If you feel some subjective call to ministry, but the church in some way does not confirm that call then God has not called you. But I want to emphasize that second part of the verse, **according to the promise of the life that is in Christ Jesus...** You see everyone of us who knows Jesus Christ has experienced that same promise of life in Christ. That means in some way God has called each of us to Christ and to some ministry calling. There is a real sense that all of us lead in some way, and in whatever way that is, is by God's will

and design, so we need to see whatever area of life we rule over as put there by God. Think about this, in Adam, the first human, all humans were given authority over this world. In the second half of [Genesis 1:28](#), God tells Adam and Eve, [have dominion over the fish of the sea and over the birds of the heavens and over every living thing that moves on the earth](#). And even a child has a space in their room or a bookshelf or a randoseru that they are in charge of to a certain degree and that responsibility from child through adult is given by God and we are expected to view it that way.

Of course we aren't born knowing how to be leaders. God gives each of us spheres of authority in the home, church, and society, but since that position of leadership and authority comes from God, it also means it is his responsibility to make us capable of fulfilling that position. And as this letter to Timothy continues we see Paul recount for Timothy how **he has been and will continue to be shaped by God's grace, which is the second truth of Gospel shaped leadership**. Verses 2-3 say, **²To Timothy, my beloved child: Grace, mercy, and peace from God the Father and Christ Jesus our Lord. ³I thank God whom I serve, as did my ancestors, with a clear conscience, as I remember you constantly in my prayers night and day.** I want to stop right here for just a minute. Notice that phrase, **as did my ancestors...** It is not the primary point of this passage, but we should see here that Christianity is not a different religion from the Old Testament. There is a continuity between our worship of God today through Jesus Christ and the worship of Adam and Eve and Abraham and Moses and David and Paul and us today. In the Old Testament, they worshipped God by faith in a coming Christ, and today we worship God through faith in a crucified and risen Christ. We do not as one pastor has rather infamously said, "unhitch the Old Testament from the New..."

But let's continue with verses 4-7, **⁴As I remember your tears, I long to see you, that I may be filled with joy. ⁵I am reminded of your sincere faith, a faith that dwelt first in your grandmother Lois and your mother Eunice and now, I am sure, dwells in you as well. ⁶For this reason I remind you to fan into flame the gift of God, which is in you through the laying on of my hands, ⁷for God gave us a spirit not of fear but of power and love and self-control.** Notice the first word that Timothy uses in his greeting to Timothy – **grace**. Grace is God giving us what we do not deserve. We distinguish it from the next word, **mercy**, which is God not giving us what we do deserve. We are in desperate need of both of these. The Bible says we are all sinners. [Romans 3:23, for all have sinned and fall short of the glory of God](#). This means that what we deserve is God's wrath for our sin, also called unrighteousness. [Romans 1:18 says, 18 For the wrath of God is revealed from heaven against all ungodliness and unrighteousness of men, who by their unrighteousness suppress the truth](#). So we deserve the judgement of God's wrath, but we are given mercy by God not pouring out his wrath on us, and we are given grace by God not only withholding judgement, but giving us forgiveness for our sin. [Ephesians 2:8-9 describes this for us. 8 For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God, 9 not a result of works, so that no one may boast](#). So, God in his grace regenerates us and gives us the gift of faith so we can believe in Christ, receive his righteousness and be forgiven of our sin. God's grace and mercy brings us peace and restoration with God, whom we are separated from because of our sin. [Romans 5:1 tells us, Therefore, since we have been justified by faith, we have peace with God through our Lord Jesus Christ](#). Today if you have been saved from your sin, you have received... **Grace, mercy, and peace from God the Father and Christ Jesus our Lord**. If you have not repented of your sin and accepted

Jesus Christ as your Lord and Savior, then can I encourage you that today can be the day that you experience those things from God for yourself. You can leave here today under God's mercy and grace rather than his wrath by turning to Jesus Christ. But our need for God's grace does not end with salvation. Anything God calls us to, we need God's grace to accomplish. That's why Paul tells Timothy he remembers him **constantly in [his] prayers night and day**. He knows that being an elder is beyond anything that Timothy could do on his own. It is clear that Paul desires more than anything to be able to personally walk with Timothy in person as he faces the challenges of pastoring the church. He most likely is remembering the pain in Timothy's tears at their separation, and he would like to experience the joy of seeing him again and that is impossible in his prison, so all he can do is pray for him. And yet that is the best thing he can do for him as well. And what is it that he prays for Timothy? We can see at least part of that prayer in his words of remembering Timothy's faith that he has received from his family. His prayer would be that that faith would continue to grow and be passed on to others through his gift of leadership. God's grace was shown to Timothy by being raised in a family that knew God, and followed Jesus. Christian parents, you will answer to God for the faith that he has entrusted to you and expects you to pass down to your children. There is no sport, or educational achievement or job that demands your time that is more important than discipling your children to know and follow Jesus Christ. It's difficult to do that when you don't put the church, the Body of Christ as a priority for you and your children. For the children and teenagers in here, your Christian mothers or fathers or both are a gift to you by God's grace so that from a young age you know about Jesus. Parents, let your children see Christ in you, and children make your parents faith in Christ, your own faith in Christ. You are not a Christian because you have Christian parents, you are a Christian because you personally repent of your sin and follow Jesus.

As we have already seen, Timothy's gift of leadership in the church was not his doing or Paul's, but Paul had been one who recognized God's giftings in Timothy's life and laid hands on him in recognition of those gifts. We see that in verse 6 where it says, **⁶For this reason I remind you to fan into flame the gift of God, which is in you through the laying on of my hands..** The gifts were not from Paul, but from God, but Paul publicly recognized those gifts, likely when doing some sort of installation of him as an elder at the church in Ephesus. Today, we continue to do a formal ordination or laying on of hands and praying over those that the church recognizes for their gifts and chooses as Elders and Deacons. We do not give them leadership gifts, we recognize those God has given by his grace. In other words, it shows our recognition not of a man or personality, but of the God who gave them their gifts. And leaders in the church exercise those gifts as ones that are given by God and not from within themselves, so Paul can say in verse 7, **⁷for God gave us a spirit not of fear but of power and love and self-control.** Service and leadership of any type within the church cannot be timid, but also cannot be angry and self-serving, but lovingly and carefully used to guide the church or ministry or Sunday School class or any other sphere of ministry. This attitude of relying on God's grace will keep us from falling into pride or allowing titles, responsibilities or even God given gifts – which we may mistakenly view as our own abilities- to take the place of the one whose work we are truly performing and whose strength and grace enable us to do it. Paul Washer, the President of Heartcry Mission Society has correctly put it like this, "There are no great men of God... Only weak, little men of a great and merciful God" We need to live and be shaped constantly by God's grace.

It is in the third truth of Gospel shaped leadership where we see the reason that understanding the first two truths is so important. Because as leaders we must be Living for God's honor. Look at verses 8-12. ⁸Therefore do not be ashamed of the testimony about our Lord, nor of me his prisoner, but share in suffering for the gospel by the power of God, ⁹who saved us and called us to^[a] a holy calling, not because of our works but because of his own purpose and grace, which he gave us in Christ Jesus before the ages began,^[b] ¹⁰and which now has been manifested through the appearing of our Savior Christ Jesus, who abolished death and brought life and immortality to light through the gospel, ¹¹for which I was appointed a preacher and apostle and teacher, ¹²which is why I suffer as I do. But I am not ashamed, for I know whom I have believed, and I am convinced that he is able to guard until that day what has been entrusted to me.^[c] By all human understanding there is shame in being imprisoned and found guilty in the legal system, whether it is the Rome of that time or the government of Japan today. And yet, to Paul, there is no shame in his imprisonment or even his death because he is not living for the honor of men but the honor of God. Notice here that the way he describes Timothy's calling and his calling is in a way that applies to every Christian's calling, not just pastors. We have all received God's grace if we know Jesus Christ so each of us have a holy calling, not because of our works but because of his own purpose and grace which he gave us in Christ Jesus... God determined your salvation before the ages began, before time itself. You owe your very life, both physical and eternal to his grace, and therefore no matter what shame comes in this life or what suffering comes for the gospel, there is no shame when we live to honor God, not ourselves. If we are living a life shaped by God's grace, because we are called by God's will then we will be living for God's honor, his glory and not our own. Given the fact that Paul puts the gospel central to the call of God, because it is a call to salvation, not to service, then that gospel seems to be at least part of what Paul says is entrusted to him. 1Corinthians 13:12 says, *12 For now we see in a mirror dimly, but then face to face. Now I know in part; then I shall know fully, even as I have been fully known.* Our faith gives us only a dim view of God's glory in this life, but our faith will end in full sight in the face of our Savior. The blessing of salvation is not just that it is fully of God, because we are incapable of doing anything to save ourselves or choosing to honor God, but that because it is God's work, we are assured that all those who God chooses will persevere in their salvation until the day that we see Jesus face to face. We don't need to worry about losing our salvation, because God is faithful to guard the work of the gospel that he himself caused us to respond to. And the life we lead of honoring God by the work of grace that he is doing in us is what gives us assurance of our salvation until the day described by the words of the hymn, It is well with my soul. *And, Lord, haste the day when my faith shall be sight, the clouds be rolled back as a scroll: The trump shall resound and the Lord shall descend, "even so" it is well with my soul.* The Bible is clear that all of us have gifts from God, and each of us is shaped by his grace and expected to live a life that honors God and brings glory to his name, until the day we see him face to face. Let's pray.